

里山内侵入防止柵設置と住民の点検により農作物被害が激減

池田町清水谷集落では平成 14 年ごろからイノシシによる農作物被害が深刻化。圃場周辺への電気柵設置や有害捕獲強化等の対策を進めていたが、不適切な柵の設置や、維持管理が不足していたため、効果が発揮されない状況が続いていた。このような中、平成 23・24 年に大規模緩衝帯整備事業による里山整備と併せて集落ぐるみの「人と獣の境界線づくり」※を導入。以降はイノシシ・シカによる被害が激減している。（※獣の天敵である人間が山に入ってくる「心理的圧力」と里山内電気柵の電気ショック＝恐怖により人の獣の棲み分けを図る）

地区の概要

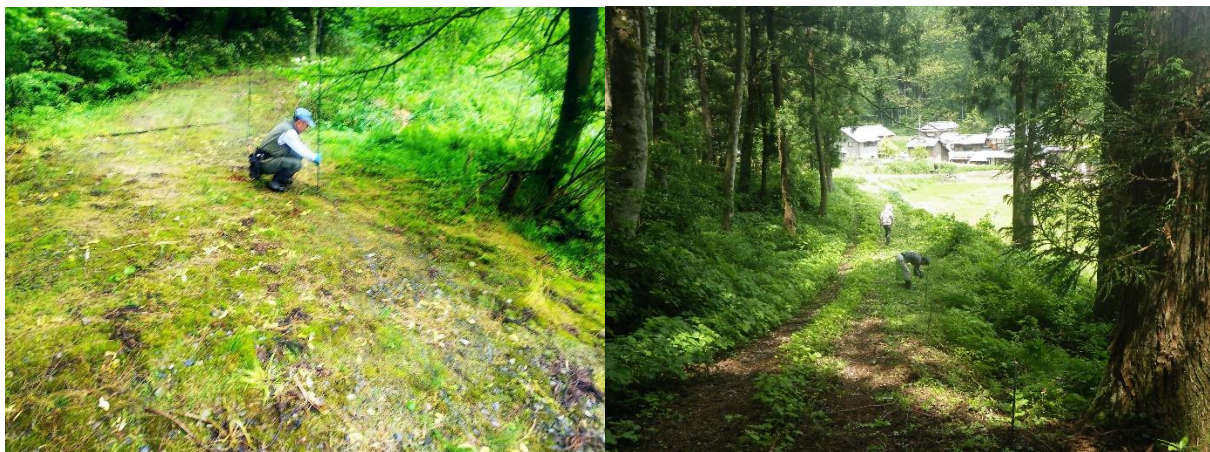
地区名	池田町清水谷集落
戸数	46 戸
人口	139 人
耕作面積	15 ヘクタール
主な生産物	水稲
対策開始年度	平成 23 年度から



池田町清水谷

現在の状況と問題点

- ・平成 23・24 年に、約 2 km の境界線を整備。5 区間に分け、1 区間 1 名の担当、計 5 名体制で日常の電気柵の点検管理を実施している。「人と獣の境界線」は緩衝帯整備時に作成した作業道も活用しており、3 月下旬から 11 月下旬まで、週に 1 回程度電気柵の山側（獣側）を歩くことを原則としている。担当者には年間 3 万円の手当が支給されている。
- ・令和元年にはシカの侵入・被害が発生し始めたため、令和 2 年にシカ用の 5 段電気柵に増強している。このような取り組みにより近年は目立ったイノシシやシカの侵入被害は発生していない。
- ・近年、サルによる家庭菜園被害が目立っているが、未だ集落ぐるみの効果的な対策が実施されていない。



普及活動の内容

- ・丹南農林総合事務所では、獣の行動特性・侵入防止柵の効果的な使用法などの知識・情報を持つ人材の育成を目的として、区長や農家組合長を対象にした集落リーダー研修会を開催している。
- ・清水谷区が取り組みを開始するきっかけとなった研修会の講師は、「鯖江市河和田東部美しい山里の会」のリーダーで「農作物被害対策アドバイザー」の服部氏。集落の要請を受けて、現地指導・集落講習会も実施している。

取組の成果

(単位：ha 千円)

	実施前（平成22年）	実施後（平成25年）	増減
被害面積	1.5	0	-1.5
被害金額	299	0	-299

集落の意見

- ・電気柵を里山の中に設置し点検管理の実施以降は、イノシシやシカの被害が無くなって喜んでいる。現在はサルの被害に困っているため、今後は家庭菜園への侵入防止柵設置や集落ぐるみの追払い活動等を集落ぐるみで実施していきたい。

今後の課題

- ・獣害対策に関する知識・情報・仕組みが次世代に引き継がれるよう準備する必要がある。
- ・サル被害に対する効果的な対応策は、①集落内の放任果樹伐採、②家庭菜園への侵入防止柵設置、③適切な追払いであるが、今後、集落ぐるみの体制づくりの支援が必要である。
- ・当地区での取り組みを優良事例として、池田町内に普及拡大を図っていく。